

カトリック

広島教区報

No. 64

カトリック
広島教区
発行責任者
編集者
深野耕司神父

広島市中区福町4-42
広島司教区館内
TEL (082) 221-6017

教区代表者会議を受けて 司教宣言出す

宣教司牧活動の基本方針と 優先課題への取り組みを発表

広島司教区長 三末篤實司教は、昨年の教区代表者会議の答申を受けて、この復活祭に司教宣言「平和の使徒になろう」を出し、これからの教区の基本方針と優先課題への取り組みを発表した。(二面、三本文又掲載)

基本方針の第一では平和の使徒になることが広島教区の固有の召命と位置づけ、あらゆる活動の源泉とする。第二では「平和」、「きょうどう」、「養成」を三つの柱としている。



復活のよろこびを すべての人に

広島教区司教 ヨゼフ三末篤實

主の復活のおよろこび申し上げます。全世界のカトリック教会は、こぞつてキリストの復活祭を祝い、よろこび、その恩恵に感謝しています。カトリック教会にはたくさ

んの祝日がありますが、その中でもこの復活祭はもっとも大きな、大切な意義を持つている大祝日です。聖パウロは、「キリストが復活しなかったのなら、私たちの宣教は無駄である

し、あなた方の信仰も無駄です。そうであれば、私たちは神の偽証人とさえ見なされるのです。(コリント前十五章 十四、十五節)と書かれています。また聖書には、「かねて言われていた通り、復活なされたのだ」(マタイ二十八章 六節)と書かれています。キリストご自身が復活の後たびたび弟子たちと多く

の人々の前に現れ、救いの道を完成されました。私たちはその信仰の遺産を受け、永遠の復活に与るよう招かれています。この復活祭を契機として、復活の栄光に与ることができるよう、最善を尽くしてまいりましょう。皆様の上に神の祝福をお祈りします。

また、これらを具体化する取り組みを別紙で示す。まず現在の「平和の使徒推進室」を本部に格上げする。次に、三つの柱の課題の取り組みを推進させるために、推進チームを配置し、スタッフの充実を図る。さらに、教区の宣教司牧評議会の組織を見直すと共に、在住外国人のための窓口を教区本部に設置する。この基本方針に基づく取り組みが教区の隅々まで推進され



手話でうたう子どもたち

二月 平和行事 各地区で多彩に

るために、司教の公式訪問を利用するとしている。宣言文には「ガイドライン」が付けられ、教区、地区、小教区レベルで「司教宣言」を実践に移すための具体的ヒントを提供する。

今年の前教皇ヨハネ・パウロ二世の来広二十五周年にあたり、記念の平和行事が各地区で行われた。広島では二十五日に平和公園での集会和、世界平和記念聖堂で平和祈願ミサ。二十六日同聖堂に市内の信徒約六百人が参列し、平和祈願ミサを捧げた。その後、教会学校の子どもたち百人が平和のメッセージを歌声によって伝え、日韓学生交流会の学生たちが「平和アピール」を宣言した。(四面下へ続く)

イコンで福音宣教



二月二十五日と二十六日、笠岡教会でイコン展が行われ、二百人以上の市民が訪れた。イコンは主任のスメット神父が二十五年かけて集めたもの。作品のモチーフを通して福音を伝え

(2006年司教宣言文 資料1)

教区としての具体的取り組み

1. 「平和の使徒推進室」を「平和の使徒推進本部」とし、三つの柱とそれぞれの課題への取り組みを推進するチームを配置し、活動を始めます。

三つの柱は、①「平和＝主の平和の働き手となろう」、②「きょうどう＝個人・組織・グループの垣根を超えよう」、③「養成＝キリストに向かって成長しよう」です。

また、それぞれの取り組みの内容は以下の表の通りです。

	1	2	3
平 和	在住外国人生活支援窓口を設置し、サポーターを配置する	平和の使徒推進室を充実、平和活動に取り組む	「主の平和」の実現のために、具体的な実践例を挙げて取り組む
きょうどう	イキイキとしたミサにする	共同宣教司牧を目指す体制づくりに取り組む	教会・組織・グループを超えた交流を深める
養 成	養成プログラムと養成チームおよび予算化の確立を図る	信仰小共同体づくりに取り組む	信者の現実を踏まえた信仰を継承する方法を提示する

2. 「広島教区宣教司牧評議会」が、効果的な機能を果たし、円滑な運営ができるよう配慮します。つまり、教区、地区、ブロック、各教会の「宣教司牧評議会」や「教会委員会」と呼ばれるものが相互に連携、支援していく体制を造りあげます。
3. 在住外国人との共生を支援するため、教区本部と、できれば地区にも窓口を設置し、財政的な措置を施します。
4. 方針に基づく新たな宣教司牧の取り組みが、教区内の隅々まで推進されていく過程や達成度を確認し、さらにそれを検証しながら促進するために、司教公式訪問を有効な機会とします。

(司教宣言文資料2) ガイドライン (概要)

「広島教区宣教司牧宣言」を実践に移すために

司教宣言を受けて教区、地区、小教区レベルで宣言を実践していくためのヒントを与えるガイドラインで、昨年の広島教区代表者会議で出された意見を集約したものである。

ここでは地区、小教区での取り組みの提案を見てみる。

《第一の柱》平和「主の平和の働き手となろう」

身近な具体的なヒントとして①教会の社会教説の学習や「世界平和記念聖堂」の活用、②家庭や社会の中での祈り、③ミサ後の分かち合い、④ミサ中での握手による平和の挨拶、⑤在住外国人の子どもの信仰教育のため資料や教材を設置や教会内の印刷物の翻訳、⑥子どもたちの平和学習の充実、などが挙げられる。

《第二の柱》きょうどう「個人・組織・グループの垣根を超えよう」

①多国籍言語でのミサの工夫、②宣教協働体の奉仕者の養成、③各組織での情報の共有化、④小グループの分かち合い、⑤ミサ後の茶話会・人材バンクの準備、⑥子どもたちの平和巡礼、黙想会、合宿などによる交流、⑦ホームページの作成と研修会、などが挙げられる。

《第三の柱》養成「キリストに向かって成長しよう」

①三地区の養成プログラムの作成と実践、②三地区を超えた協働する奉仕者の養成、③ブロック・地区・教区などでの人的交流の促進、④教会学校におけるリーダー養成、⑤終身助祭についての検討、⑥信仰小共同体作り、⑦司祭と信徒の間の関わりや、小教区を超えた集まりの促進、⑧信者の現実を踏まえた信仰を継承する方法の提示、⑨信者の日常生活につながる司祭の説教の工夫、⑩信仰継承の中心である両親の祈りの手本や家庭祭壇の設置、などが挙げられる。

これらはいくまでも提案であり、地区や小教区で優先順位を決めて取り組んでゆくことが大切であろう。

宣教司牧に関する司教宣言

『平和の使徒となろう』

「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」(ヨハネ 20・21)

主のご復活おめでとうございます。

復活された主イエス・キリストが、最初に弟子たちに告げられたことばを思い起こしながら、広島教区の司教として、親愛なる信徒・修道者・司祭の皆さんと一っしょに、「キリストの平和を伝えるために遣わされている」ことを、新たに心に刻みたいと思います。

さて、広島教区という中国地方5県(岡山・鳥取・島根・山口・広島)の、福音宣教という尊い使命を委ねられている私たちは、新しい世紀を迎えて、2002年10月「沖に漕ぎ出せ」のテーマで「教区大会」を開き、新しい一歩を踏み出しました。

そして、2003年に『広島教区創立80周年』を祝い、2004年には、「広島教区信仰共同体」の母なる教会である「司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の献堂50周年」、2005年「戦後・被爆60周年」を記念し、それぞれに意義深い節目を刻んできました。

この流れと動きを基礎にして、5年後、10年後の教区の姿を見据え、より明確に、具体的に方向性を定める「基本方針と優先課題」を打ち出すために、2005年11月23日「広島教区代表者会議」が開かれたのです。信徒を中心として下から築き上げたこの会議は、大いなる喜びと熱気に包まれ、希望に輝く熱い火が燃え上がりました。

この「広島教区代表者会議」とそれまでの過程から出てきた提言を受けて、私は、私たち広島教区の宣教司牧活動の基本方針を宣言します。

《広島教区 宣教司牧活動の基本方針》

1. 「平和の使徒となろう」を広島教区固有の召命とし、あらゆる活動の源泉とします。
2. 「平和」「きょうどう」「養成」を三つの柱とします。

この宣言を実施するために、私はこの宣言文のほかに、広島教区としてのさまざまな課題における具体的取り組みを別に提示します。(宣言文資料1)

さらに、私は、私たち一人ひとりが三つの柱とそれぞれの課題に取り組んで、それを実行していくための『ガイドライン』(宣言文資料2)の作成を広島教区基本方針推進チームに依頼しました。これもあわせて提示しますので、教区、地区、ブロック、教会の各レベルで大いに活用して下さい。

広島教区の今年の標語は、『信仰イキイキ 新たな出発 ～わたしを遣わしてください～』です。復活の主に出会った弟子たちは「わたしたちの心は燃えていたではないか」(ルカ 24・37)と確認しあい、信仰に目覚めました。あの弟子たちに与えられた福音宣教に向かう同じ信仰の恵みを祈り求め、「わたしを遣わしてください」と願いながら、希望のうちに最善を尽くしてまいりましょう。

2006年4月16日 復活の祝日
広島教区司教 ヨゼフ 三末 篤實

HP担当者交流会に27人



三月二十一日、広島カトリック会館多目的ホールで「平和の使徒推進室」の広島教区ホームページ委員会の主催で、「第一回ホームページ担当者交流会」が開かれた。

この企画は、昨年の教区代表者会議で、小教区の必要な情報公開の手段としてホームページを有効に活用するために、教区レベルの研修会を開いてほしいとの要望があり実現。教区内の各地から、信徒・修道者・司祭の二十七名が参加した。



（一粒会から） 聖香油ミサで朗読奉仕者認定式

東京カトリック神学院四年生、蔵主（くら ちから）広島教区神学生が、四月十二日（水）に広島カテドラル（鞆町）で行われる聖香油ミサで朗読奉仕者に選任されることになった。

また、ガラリヤの家で初年度養成を受けていたベトナム出身のトオアン神学生が、この春、東京の神学院に進級し、猪口大記さんが

天国の お二人に感謝

ガラリヤの家で初年度養成を受けることになった。

昨年帰天された鹿江正信神父と丸川悟郎神父の遺産のうちから、一粒会に対してそれぞれ百万円の寄付があった。感謝のうちに、両師の永遠の安息をお祈りし、ご報告いたします。

前教皇来日二十五周年記念 二月平和行事



山口地区で記念講演会

前教皇ヨハネ・パウロ二世来日（来広）を記念して、山口・島根地区は毎年平和の活動を続けています。今年も二月にこの行事を行うことになり、百二十人が参加し、徳山教会で記念講演会を開催しました。

『非暴力による平和への道』というテーマで、講師はこの活動に深くかかわっている、下関労働教育センターの林尚志神父が講師でした。

大会は徳山教会の主任司祭・ドメニコ・ヴィタリ神父の「この大切な平和活動が教会の内外にアピールでき、また受け入れてもらえるように祈りましょう」という挨拶で始まりました。聖堂の中では、「平和」「憲

法九条とその二項」「靖国問題」「侵略」「空襲」「劣化ウラン弾」「無防備都市宣言」「社会教説」というような言葉が飛び交いました。

最後に林神父が、前教皇が生前口にしてきた、「人類は、まだまだ可能性があります。カウントを始めてから、まだ二千年そこそこなのです」という言葉を引用して閉会しました。

（古野訓明記）

岡山地区でも

二月二十六日、ヨハネ・パウロ二世来日二十五周年記念行事が岡山教会でも行われました。ミサでは共同祈願として、「ヨハネ・パウロ二世教皇の列福と取次ぎを願う祈り」を皆で唱え、ミサの後は聖堂で、女子パウロ会制作のDVD「平和の巡礼者ヨハネ・パウロ二世」の鑑賞会に約五十名が参加し、当時の体験談を分かち合いました。

—中略—

「平和アピール」は二十五年前にその場になかった自分にも、時空を越えて胸を貫く強い力があり、現在の私たちにまつすぐ向けられたメッセージと感じられます。昨年行われた教区代表者会議で、広島教区は平和、きょうどう、養成の三本柱を打ち立てました。その一つである「平和」の働きは、平和の使徒という広島教区の固有の召命を受けるわたしたち一人一人に与えられている使命です。

—中略—

世界中で、今も争いによってたくさん「いのち」が奪われ続けています。日本では戦争放棄を謳った平和憲法が改定されようとしています。いま私たちが選ぶ道は、平和憲法を守り、一人一人の「いのち」が大切にされる世界を求め、訴えることではないでしょうか。

ヨハネ・パウロ二世来日二十五周年を機に、改めて「平和アピール」のメッセージを心に刻み直したいと思

平和への想いを深める

二月二十三日〜二十七日、第十二回日韓学生交流会が広島カテドラル韓国教会で開かれ、韓国のチョンジュ教区の大学生日本各地からの大学生が集いました。

日本と韓国の司教団の発意によって始まった日韓学生交流会は、一九九五年に始まり、今回で十二回目を迎えました。

戦後六十周年を迎えた今年、広島で開催されたこの

交流会のテーマは、「Love & Peace(愛と平和)」です。交流会を通して篤い友情と友愛の絆を結び合い、平和についての講話や体験学習を通して平和の意味や尊さについて学び、また特に毎日の祈りを通して平和への想いを深めました。

日韓学生交流会 平和アピール

私たちは大きな声でアピールします。私たちは愛することを続けながら、世界平和を築いてゆきます。

平和のために、私たちは大きなことはできませんが、祈りのうちに自分自身を振り返り、自分の弱さをしっかり自覚します。そして隣人の痛みや悩み、そして喜びに共感し、国や民族を越えて、そして被害者・加害者という立場を越えて、神の子として連帯します。

世界平和のために祈り、原爆やすべての戦争犠牲者と遺族のために祈ります。戦争や被爆を体験した方々の高齢化が進む中で、その方々の体験談を受け継ぎ、人間の歴史を多面的に捉え、客観的に判断しながら平和な世界を築くために活動してゆきます。

私たちは物質的なこの世で、自分の欲望や自己愛を抑え、自国の平和だけを求めません。反対に、他人や他国を思いやり、他人のためになること、小さな親切を積み重ね、私たちの後輩や子どもたちにも私たちの体験を伝えてゆきます。

2006年2月26日

広島世界平和記念聖堂にて

日韓学生交流会 Love&Peace



カルチャーナイト



宮島観光



お好み村にて



交流会を終えて

平和の実現のために

この交流会のテーマは「愛と平和」。日本と韓国の歴史を考えれば、非常に重いテーマに挑戦しました。多くの体験学習を行い、平和に対する想いを深めていきました。

平和を考えるとというひとつの目的を持ち、異国の若者たちが集い、同じ思いを共有し合えたことが平和への一歩になっていくのだと感じることができました。そして韓国の学生が、この

私たちの役割

短い時間の中にも皆と拙い韓国語や英語、日本語を駆使して交流が出来たことは大切な思い出です。

私自身この大会において一番強く感じたことは、歴史を学んだり、歴史を考えたりする際に必ずや必要となる、歴史をみる視点の果たす役割と、私たちの果たすべき役割です。分ち合いのときに、ある韓国人学生が次の様な事を言ってくれました。「自分は今まで、

交流会での経験を自国に帰っても伝え、折っていきたいと語ってくれたとき、

まさに私たちは平和のために神様によってここから派遣されここで学んだ平和を伝えていく立場なのだ実感しました。そして、それがこの交流会によって与えられた平和の実現のための使命であると感じました。

この交流会で得た考え、心のふれあい、愛、そして素敵な仲間との出会いは私にとって一生に糧になるでしょう。(高田 愛)

日本は戦時中に東南アジア各国に対して悲惨なことを行ってきたのだから、原爆を落とされて当たり前だと思っていたが、平和学習を通して、日本も一犠牲者であることが分かった。

戦争を体験していない私たちには、体験された方々のお話を次の世代に受け継ぐと共に、歴史を客観視し様々なもの見方や考え方を考慮したうえで、平和を築き上げていくことが課せられているのではないのでしょうか。(小松 苑子)

セミナー

どうしよう！子どもとの関わりを感謝のうちに閉会

シスター春日

呉市在住の講師 伊藤 美智代さん、東京の難民移住移動者委員会からの二人の参加者をはじめ、東西南北から沢山の参加者がありました。締め切りの日の二十五名という悲しい数字にがっかりしていた事が嘘のように感じられます。

伊藤さんの演題「ニューカマーの子ども達とふれあつて」に有るように実際にふれあつて来られた体験からの沢山の事実を、飾らず、淡々と、素朴に語ってくださった、伊藤さんのお人柄を感じたセミナーでした。それを受けて自己紹介をゲーム感覚から始め（これがイントゥルダクション）、六つの言語別グループで、ワークシヨップをしました。（一枚の模造紙の上にそれぞれマジックで質問に答えて書いていく形式をとる）。

① 私たちが関わっているダブルの、又は外国籍の、或いは日本の子ども達は、



私たちに何を望んでいるのでしょうか？②二枚目の模造紙に、この子ども達がいのち輝かすのを、邪魔しているものは何だろうか？（地域社会、学校、家庭などで）出し尽くした時点で関わっている者達の協力で邪魔しているものを、無くしていくモノに○を付ける。③三枚目。子ども達がいのち輝かす為に、私たちに何が出来るだろうか！何をシナケレバナライだろうか？出し尽くしたら、直ぐにでも出来る事から順番をつける。④子供たちがいのち輝く為に、私たちは誰と

つながっていたら、それはスムーズに出来るでしょうか？親、家族、教師、学校、市町村役場、教育委員会、警察、教会、地域サークル等など。⑤⑤。))多ハートの形のはがき大の紙が配られ、個人としての抱負、決意を書いてそれぞれ持ち帰る。

参加してくださった方の感想がメールで送られて来ました。「ワークシヨップの作業を通して分かち合ひは思いを深めることとなった。在住外国人の子ども達を抱えている困難さと問題が浮き彫りにされたが、そのいのちの輝きを阻むものから解放するため、私たちは何が出来るのか。大切な事は関わる事。大事にされていることが実感されるように努力すること。同時に、新自由主義による経済優先主義へ挑戦し、子どもを困む家族の苦しみ、職場や地域社会の歪みをしっかりと見据えること。厳しい現実を出し合いながらも、寄り添い合う。いのちの温かさが感じられた分かち合ひとなった。」(岡山の鈴木寛)

海峽がらみの会2

下関労働教育センターより

●自分の住む街の「都市宣言」をご存知だろうか？市民の声を聞き、議会で決議される都市宣言は、行政施策の中に活かされ、住む者の「誇り」として顕示される。●一月十五日、「都市宣言」と市民の誇り」と題して下関市民フォーラムをセンターで開催した。下関は昨年隣接する町と合併したのだが、その際これまで宣言されていた都市宣言が白紙になった。●センターでは、十フイート映画上映する下関市民の会と連携して、毎年夏の平和ウォークに参加するなど、様々な平和活動を行ってきた。下関の都市宣言の一つでもある「非核平和都市宣言」がどうなるか気になるところだ。幸い開催日前に議会が決議した。●センターで市民フォーラムが初めて開催されたのが九十年。「ゴミ問題を考える」から始まり以降毎年「海と国際化」で、国際化とは何かや、在日外国人から見た

下関を、「知っていますか？生きる権利」で、老人福祉、不登校や子ども達の権利条約、障害者から見た下関を。「敗戦五十周年」では、戦争体験者の話や開港連絡船の歴史などを紐解いた。●自分の住む街を見直すといういろいろな人々の声が聞こえてくる。都市宣言には誰もが幸せに生きるための精神が込められている。●「戦争は人間の仕業です」と明確にその責任の所在を語った前法王の言葉もまた「宣言」だ。それを各々がきちんと受けとめた時、誇りとなる。「キリスト者にとつて使徒信条は誇り高き宣言の最たるものだろう。」

(細江教会・廣崎隆一)



三末司教「古希」

三末司教様は四月二十四日の誕生日で古希(七十歳)を迎えられます。おめでとございます。

金祝・銀祝・ダイヤモンド祝

おめでとございます

六月十一日(日)に司教叙階記念と金銀祝のお祝いを倉敷教会で行います。

〔金祝〕

- イェズス会 Sr.井上清州子
- マクガレル・ローレンス Sr.下條裕紀嬢
- イェズス会 Sr.吉岡洋子

〔銀祝〕

- イェズス会 (ヘンゼラー・エツアルト)
- イェズス会 マクガレル・ローレンス

- イェズス会 清水 弘
- イェズス会 Sr.佐藤道子
- イェズス会 Sr.日浦美恵子

- イェズス会 Sr.細川美千代
- イェズス会 Sr.前島敬恵

〔ダイヤモンド祝〕

- イェズス会 Sr.出口榮子
- イェズス会 Sr.天野明子

司祭人事異動

(イェズス会関係) (カッコ内は旧職) 異動時期は復活祭後	
山根敏身神父	祇園教会助任 (山口教会主任)
松村信也神父	山口教会主任 (山口教会助任)
オレギ神父	周南地域チームミニストリー・徳山教会担当 (周南地域チームミニストリー・メンバー)
アレックス神父	宇部・小野田チームミニストリー・モデラートル・宇部教会担当 (下関チームミニストリー・モデラートル、細江教会担当)
高橋義博神父	下関チームミニストリー・彦島教会担当 (山口レジデンス)
小崎次郎神父	下関チームミニストリー・細江教会担当 (長束共同体)
中村健三神父	下関チームミニストリー・モデラートル、長府教会担当 (下関チームミニストリー・長府教会担当)
田丸 篤神父	山口教会助任 (海外研修)
三浦 功神父	教区外研修 (下関チームミニストリー・彦島教会担当)
恩地 誠神父	教区外研修 (宇部・小野田チームミニストリー・宇部教会担当)
赤 相源神父	海外研修 (第三修練) (祇園教会助任)
(教区司祭関係) (カッコ内は旧職) 関神父は2月から、その他は復活祭後異動	
関 棟國神父	松江教会助任 (観音町教会助任)
金 超登神父	岡山南教会・玉野教会助任司祭 (日本語研修・玉野教会在)
野中 泉神父	瀬日ブラジル人村司祭 (団体付司祭) 及び向原教会担当司祭 (岡山教会共同宣教司牧チーム)

広島司教区行事および司教日程表		
4月	4日(祝)	司教区司祭協議会 14:00
	12日(祝)	聖香油ミサ (カテドラル) 14:00 (教区司祭の集まり 13:00) 復活の主日ミサ (カテドラル)
	16日(日)	
5月	3日(祝)	乙女節まつり 10:00
	7日(日)	岩倉墓地 聖信式 12:00
	8日(日)	イェズス会長東修道院 公式訪問 18:00
	9日(祝)	司教区司祭協議会 14:00
	14日(日)	東広島教会 公式訪問・聖信式 9:00
6月	21日(日)	岡山教会 公式訪問・聖信式 10:30
	28日(日)	下関教会 公式訪問・聖信式 9:00
	4日(日)	聖霊降臨の主日 福町教会 公式訪問・聖信式 14:30
	4日(日)	教区宣教司祭協議会
	4日(日)~10日(日)	教区司祭懇話会 (於:長束)
	11日(日)	司教叙階記念と金銀祝 (於:倉敷教会)
	12日(日)~16日(木)	定例司教総会
	18日(日)	向原教会 公式訪問 10:30 (三次教会の公式訪問もかねて)
	18日(日)	広島地区・教区合同宣教司祭協議会
	20日(日)	司教区司祭協議会 16:00
21日(日)	教区司祭協議会 10:00	
21日(日)	全国体育施設協会職員研修会 (於:下関グランドホテル) 13:30	
25日(日)	長教会 公式訪問・聖信式	
26日(日)~28日(火)	大阪教会管区司祭研修会 (於:岡山教会)	

カトリックの雑誌 ③ 『カトリック生活』

A カトリック雑誌では一番古いんだって?
B うん。サレジオ会が日本に来て二年後の一九二八年創刊だ。最初は創立者の名前をとって「ドン・ボスコ」っていう月刊誌だったらしいよ。
A サレジオ会って、たしか学校とか養護施設とか、青少年の教育が中心じゃなかった? 出版もやってんの?
B ドン・ボスコ自身が「ペンの使徒」って言われてたぐらいで、青少年や大人の信仰生活のためにわかりやすい本をせっせと書いて出版してたんだって。
A ふーん。で、いつ名前が「カトリック生活」に変わったんだい?
B 「ドン・ボスコ」の後には「からしだね」っていう名前だったけど、農業関係の雑誌と間違えられたこともあって、五十四年前に当時の編集長のバルバロ

神父が今の「カトリック生活」に改名したんだってさ。
A バルバロ神父って、聖書のバルバロ訳の?
B そう。初の日本語訳のね。彼は、信者未信者を問わず、読者をカトリック生活へ、つまりキリストの生ける証人になりたいと望んでいたんだ。
A ふーん。たしかに「カトリック生活」はわかりやすいな。
B なんでも笑い話で、教会の雑誌係りのひとがある信者に、「カトリック生活」の定期購読を更新するかどうか聞くために、「カトリック生活」は続けますか? って聞いたたら、その人はドキッとした表情をして、それからニヤッと笑いながら「うーん、自信ないけど」と答えたんだって。
A ハハハ。しかし、写真やイラストが豊富できれいな雑誌だね。しかも安いじゃないか。
B お、君も「カトリック生活」続けてみるかい?
A うーん、自信ないけどね(笑)

中プロ いのちについて考えました

三月二十五日から二十八日、広島学院校舎で中プロ（中国プロテスタント・カトリック高校生大会）が開かれ、高校生百二十人が参加しまし



た。中プロも今回で四十回目を迎え、先輩たちの差し入れもあり、中プロ誕生会もしました。中プロの第二世代も増えてきています。今回のテーマは「LIFE 命：人生」でした。少し重いテーマでしたが、高校生たちは真剣に考え、分かち合いをしました。また、市内の乳児院から山元先生をお招きして、乳児院の赤



ちゃんたちの話を聴き、命の大切さを学びました。現在の中プロの定番、「マインマイン」のフォークダンスを何時間も踊るなど、楽しいレクレーションも一杯で、たくさん仲間を作ることができました。

お知らせ 青少年の集い乙女峠巡礼

五月二日夜十時
徳佐駅前集合
その後津和野まで徒歩巡礼
三日、乙女峠ミサ後解散
参加資格 小四から青年
参加費 八百円
申込み等、詳しくは各教会
配布のチラシ参照のこと。

日韓合同キャンプ ザビエル生誕五百年

七月三十日から八月四日
十二、十五）喜びの涙でもあるからです。
現代に司祭の召し出しは少ないですが、私には結婚しなくても沢山の息子と娘がいます。三百人位に洗礼の恵を授けたからです。幸せです！もう一度十一歳に戻っても、また司祭・宣教師の道を選びたいです。



『涙のハンカチ』

イエズス会士
エリザベト音楽大学
ホアン・カトレット神父

私は一九三七年にバレンシア（スペイン）で生まれ、宣教師になりたいと思ったのは十一歳の時でした。きっかけはアラスカで四十年間宣教師であったロレンテ神父様が

私のために父に送ってくれた写真でした。表には「雪の上でそりを引く張る犬達」、裏には「将来司祭・宣教師になる十一歳の子どものために、ここでこの犬は彼を待っている」とありまし

た。一九五四年バレンシアにてイエズス会に入会し、二年間の修練を終え、「寒いア

実は私は、祖国スペインの謬を借りて「涙のハンカチ」になりました。そして今も出会うすべての人たちのための「涙のハンカチ」になりたいのです。それは聖パウロが言うように「泣く人と一緒に泣き、喜ぶ人と一緒に喜ぶ」（ローマ



一九五四年バレンシアにてイエズス会に入会し、二年間の修練を終え、「寒いア



場所 国立山口徳地
少年自然の家

対象 中高生とリーダー

参加費 一万五千元

申込み等、詳しくは各教会
配布のチラシ参照のこと。

あっちこっちミサ
若者たち集まって！

テーマ 「おうちに帰ろう」

日時 五月二十一日十五時

開催地 全国あっちこっち
（若者が各地で集まって、同時刻にミサをします。）

広島教区では、
広島市轄町教会
岡山市南岡山教会
参加自由です。



復活の春。新しい命が芽生える季節、新たな出発の季節。代表者会議を受けての司教宣言が出され、教区も新たな旅立ちの時を迎えた。「平和の使徒」として、平和の福音を全てのの人に伝え、運ぶために。

本誌にも若い編集員二人を迎え心機一転。 (き)